

## 令和3年度県北地区読書活動支援者育成事業研修会

令和3年12月5日(日) 福島県自治会館において学校や図書館等で活躍する方々が専門的な知識や技能の向上を図ることを目的として標記の研修会を開催しました。

- 1 事例発表 「子どもたちに寄り添って20年～読み聞かせ活動をとおして～」  
おはなし にゃーご 佐々木 世紀 氏 市川 真美子 氏 斉藤 和代 氏  
五百川 幸江 氏 明石 米子 氏 芳賀 昌代 氏

- (1) 絵本「おおきくなるっていうことは」の読み聞かせ  
○ 間を十分に取って語りかけるような読み方は参加者の心に響く素晴らしいものでした。
- (2) 影絵「モチモチの木」の読み聞かせ  
○ 切り絵風の影絵の投影と役に合った語り口調により、幻想的な世界観を醸し出しました。



影絵「モチモチの木」

- 2 講 義 「本と子どもを結ぶために～移動図書館あづま号での出会いから～」  
福島県立図書館 企画管理部企画協力班 主任司書 遠藤 豊 氏

- (1) 移動図書館  
○ 移動図書館を有する都道府県＝全国で2県のみ 福島県・高知県  
○ 子どもたちに人気の本やテーマ、利用頻度の高い本など傾向を分析し、3,000冊ほどの魅力的な本を積んで県内を巡回しています。
- (2) 絵本カルタ  
○ 本を読んでいる子どもだけが楽しめるのではなく、読書にあまり関心を示さない子どもも楽しめ、本に興味をもつきっかけ作りとなる実践の紹介でした。



- ① 絵本を10冊程度並べる  
② 絵本の題名や内容に即した読み札を読む  
③ 合致する絵本を取る

例) 読み札：「お地蔵様に 笠をさして 優しいじいさま」絵本名：「かさじぞう」

- 3 震災語り部による読み聞かせ 「紙芝居とアニメーションによる読み聞かせ」  
浪江まち物語つたえ隊 八島 妃彩 氏

- 実話をもとにした紙芝居とアニメーションは、浪江町の言葉で語られており、当時の緊迫感がひしひしと感じられるとともに3.11の記憶を語り継いでいくことの大切さを改めて感じさせられる内容でした。



紙芝居「無念」



DVD「わたしは帰らない」

### 【参加者の声】

- 影絵は、お話の世界観や登場人物の心の動きをよりリアルに子どもたちに伝えられると思いました。
- 絵本カルタは子どもに本を好きになってもらう手段として仕事に生かしたいと思いました。
- 震災語り部による読み聞かせは、事実の重さを地元の言葉でしっかりと伝えていたのが良かったです。
- 自分では選ぶことのない絵本に出会う事ができました。

### 【読書活動を盛り上げていきましょう!】

- 絵本カルタ、読書でビンゴ、本の福袋など、楽しい活動を通して読書にあまり関心がない子どもたちがその魅力に気づくきっかけづくりをお願いします。
- 支援者同士が情報を共有しながら活動を継続していくことが大切です。今後も県北教育事務所は研修会の開催等で皆様を支援してまいります。